

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈柴田義松元代表理事、木下繁彌元理事ご逝去のお知らせ〉

〈理事会報告（2018 年 11 月 18 日）〉

■ 審議事項

- I 各種委員会の活動について
- II 第 29 回大会（北海道教育大学）について
- III 次期大会（第 30 回京都大学大会）について
- IV 「自主企画セッション」（仮称）の提案
- V 柴田先生の追悼記事について
- VI 30 周年記念事業について
- VII その他

■ 報告事項

- VIII 事務局報告
- IX その他

〈研究集会のお知らせ〉

〈第 30 回京都大学大会のお知らせ（一次案内）〉

〈事務局からのお知らせ〉

柴田義松元代表理事、木下繁彌元理事ご逝去のお知らせ

本学会の初代代表理事でいらっしゃいます柴田義松先生が去る 2018 年 10 月 21 日に、また、本学会の共同創立者・元理事でいらっしゃいます木下繁彌先生が去る 2018 年 11 月 2 日にご逝去されました。日本のカリキュラム研究や教授学研究、学力論研究等に大きな足跡を残された両先生には、直接的に、また、間接的に、多くのことを学ばれてきた学会員の皆様が多くいらっしゃると思います。両先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、先生が残して下さった大きな遺産の継承と発展に、本学会としても取り組んで参りたいと思います。

なお、両先生のご遺族の皆様より、弔問や弔電等については辞退したいとのご希望がございました。皆様におかれましてはご高配いただけますよう、お願い申し上げます。

理事会報告（2018年11月18日）

定例理事会が11月18日（日）10時から13時15分まで、筑波大学東京キャンパス文京校舎（茗荷谷）講義室320にて開催されました。事務局3名を含む25名（うち理事22名）の参加がありました。

■審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会（研究奨励賞審査委員会含む）

安藤委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。

まず、『カリキュラム研究』第28号の編集の進捗状況に関する報告がなされた。続いて、「図書紹介」対象図書および「学会研究奨励賞」の推薦、ならびに、「第29回大会報告」「研究集会報告」「秋のセミナー」「海外カリキュラム研究情報」「学会彙報」の原稿提出に関する依頼があった。

さらに、安藤委員長より資料に基づき提案された『実践研究論文』と『研究論文』についての申し合わせ（修正案）について、審議がなされた。審議の結果、『カリキュラム研究』第28号については文言を一部修正のうえで内容を確定させ、学会ウェブサイトにおいて公開することとなった。また、安藤委員長より「日本カリキュラム学会研究奨励賞 規程（修正案）」の資料が配布され、修正箇所を中心に、新規程に関する提案がなされた。審議の結果、文言等を一部修正のうえで改訂することとなった。

加えて、学会ウェブサイト上に公開されている過去の学会誌情報について、第26号のものを追加で掲載することが確認された。

2. 国際交流委員会

近藤委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。

まず、課題研究について、「テーマ（案）」「趣旨」「登壇者（案）」「司会者（案）」が提案された。審議の結果、提案内容に沿って進めていくことが承認された。さらに、「海外カリキュラム研究情報」の進捗状況について報告があった。

3. 研究委員会

子安委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。

次回大会における課題研究のテーマについては、他のセッションの内容等も勘案しながら決定する必要があることが提案された。この点もふまえて検討した結果、「カリキュラムマネジメント」「教科横断型学習」を課題研究のテーマとして取り上げることが提案された。あわせて、研究集会のテーマとして「指導要録の検討」を取り上げることが提案された。今後、研究委員会で検討を重ね、決定することとなった。

4. 広報・若手育成委員会

村川委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。

まず、「秋のセミナー」の概要に関する報告があった。続いて、大会の課題研究の企画方針について、ベテラン研究者の研究蓄積や経験に学びつつ、その内容に関してベテラン研究者と若手研究者が語り合うというかたちで今後数年に渡って行ってはどうかという提案がなされた。審議の結果、提案内容に沿って進めていくことが承認された。

次回大会での課題研究のテーマならびに登壇者については、他の課題研究のテーマと重複がないかたちで設定するように進めることが確認された。

II 第 29 回大会（北海道教育大学）について

1. 大会収支決算書

坂井第 29 回大会実行委員会委員長より、次に示す資料に基づき、大会収支決算書についての報告があった。審議の結果、承認された。

あわせて、大会運営の一部を外部委託したことにより大会校の負担が軽減されたことが確認され、今後の大会運営においても、必要に応じて活用していくことの可能性が提案された。

松下代表理事より、坂井第 29 回大会実行委員会委員長に対して、円滑な大会運営への御礼が述べられた。

日本カリキュラム学会第 29 回（北海道教育大学旭川校）大会収支決算書

(1) 収 入 (単位:円)

科 目	精 算 額	内 訳	備 考
学会より大会補助	650,000		日本カリキュラム学会
参加費	443,500	3,000×113名=339,000 2,000×12=24,000 3,500×23=80,500	
広告料	280,000	30,000×5社=150,000 20,000×6=120,000 10,000×1=10,000	
小 計①	1,373,500		
研究交流会②	315,000	5,000×63=315,000	
合計 (①+②)	1,688,500		

(2) 支 出 (単位:円)

科 目	精 算 額	内 訳	備 考
会場借上料	147,301	貸上費 147,085+振込料 216	北海道教育大学施設使用料

製本費	337,392	大会プログラム : 124,740 発表要旨集録 : 205,200 送付文書 : 7,452	大会プログラム(コ)・発表要旨集録(コ) 送付文書(コ)
通信費	281,915	郵便代 : 7,660 Web受付システム : 166,320 大会プログラム発送 : 70,486 角型3号封筒 : 18,900 あて名シール : 18,549	郵送料等 Web受付システム(コ) 大会プログラム発送(コ) 角型3号封筒(コ) あて名シール(コ)
菓子・飲み物	3,712	お菓子代 : 2,100 食品容器代 : 1,612	会員及び理事控室用
シンポジウム会議費	5,880	弁当 : 5,880	
運営諸費	134,372	用紙等事務経費 : 39,995 角印 : 4,100 名刺ホルダー等追加 : 1,944 発表要旨提出チェック : 21,600 参加登録証参加証 : 61,873 名札ケース : 4,860	文具、会議費その他 発表要旨提出チェック(コ) 参加登録証参加証(コ) 名札ケース(コ)
アルバイト費	270,000		事務局アルバイト賃金
研究交流会	342,000	研究交流会 : 315,000 会場バス送迎 : 27,000	
配送等(振込等)	486	コームラへの振込料 : 486	
学会事務局へ返納	165,442		
計	1,688,500		

コームラに委託した業務は(コ)とした

(3) 収 支 (単位：円)

総収入金額	1,688,500
総支出金額	1,688,500
差し引き残額	0

上記のとおり、収支決算をご報告いたします。

平成 30 年 11 月 10 日 日本カリキュラム学会第 29 回 (北海道教育大学旭川校) 大会
大会実行委員長 坂井誠亮

2. 『教育学研究』大会報告案の確認

坂井第 29 回大会実行委員会委員長より、次に示す資料に基づき、提案があった。審議の結果、文言を一部修正のうえ、提案の通りに進めていくことが承認された。また、今後気づいた点があれば、11 月末までに、事務局あるいは坂井第 29 回大会実行委員会委員長にメールにて連絡をすることとなった。

日本カリキュラム学会第 29 回大会報告(2018 年 6 月 30 日・7 月 1 日)

日本カリキュラム学会第 29 回大会は、2018 年 6 月 30 日～7 月 1 日に北海道教育大学旭川校を会場にして開催された。参加者は 148 名であった。

自由研究発表では、9 分科会が設けられ、38 件の発表があった。各分科会 3～5 件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究は 4 つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「カリキュラムの評価とマネジメントをめぐってー「効果検証」を中心に」(コーディネーター/司会：田中統治・澤田稔・吉富芳正)をテーマに、岡部善平、安田節之、安藤輝次から提案がなされた。ここでは、アメリカを中心に展開されてきた「プログラム評価」研究を交えて、日本でのカリキュラム研究の課題を検討し、カリキュラムの「効果検証」をめぐり理論と実践の論点について、提案者それぞれの立場から整理された。その後、フロアとの意見交換を通じて、今後の展望について議論が深められた。

課題研究Ⅱは「学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどう進めるか」(コーディネーター：村川雅弘・柴田好章、司会：村川雅弘・田村知子・柴田好章)をテーマに、天笠茂、木村裕、水野正朗から提案があった。ここでは、学校教育活動の充実と学術研究の進展の両立を目指して、学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどのように進めるかについて各提案者から示され、今後の研究推進の在り方について意見交換がなされた。

課題研究Ⅲでは、「「見方・考え方」をどう捉えるかー資質・能力の育成と教科の本質の追求とをつなぐ」(コーディネーター/司会：的場正美・石井英真)をテーマに、西岡加名恵、草原和博、阿部昇から提案があった。ここでは、「見方・考え方」という概念をどのように捉え、そこからどのような実践的示唆を導き出すのかについて各提案者それぞれの立場から示され、

資質能力の育成と教科の本質とを架橋するものをどのように概念化するかについて検討がなされた。

課題研究Ⅳでは、「いま改めて多文化主義の教育を考える」（コーディネーター/司会：近藤孝弘・中野和光、指定討論者：上地完治）をテーマに、本田優子、生澤繁樹から提案があった。ここでは、多文化教育の中でも特に先住民の教育に焦点を当て、ウレシパ・プロジェクトという実践例を手がかりに、アメリカにおける議論を一つの参照軸としつつ、これまでのカリキュラム研究が反省すべき点と今後の課題について各提案者から示された。その後、意見交換を通じて今後の在り方について議論が深められた。

また、公開シンポジウムでは「子どもの主体的な学びを支える学校づくり」（コーディネーター/司会：高橋亜希子・坂井誠亮、指定討論者：前田賢次）をテーマに、鹿毛雅治、豊田ひさき、村田敏彰、吉田尚規から提案がなされた。子どもの主体的な学びとはどのような学びであるのか、子どもの主体的な学びを支える教職員集団をどのように組織するのか、すなわちカリキュラムや校内研究体制をどのように組織するのかについて、動機づけに関する研究と授業研究の在り方に関する視点から、東井義雄の授業実践に関する歴史研究の視点から、学校現場における具体的な実践から話題提供していただき、フロアの参加者とともに熱い議論が展開された。

（北海道教育大学旭川校：坂井誠亮、藤川聡）

Ⅲ 次期大会（第30回京都大学大会）について

西岡理事（第30回大会実行委員会委員長を兼任）より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。

まず、大会スケジュール、大会参加要領、基調講演ならびに公開シンポジウムの内容と登壇候補者についての提案がなされた。審議の結果、逐次通訳が入ることを勘案して基調講演の時間を大会校にて再検討してもらうことが確認された。その他の事項については、提案内容に沿って進めていくことが承認された。

次に、大会日程が通常よりも1～2週間前倒しになることから、「『自由研究発表申込票』の提出〆切」「大会プログラムの送付」「『発表要旨集録』の原稿提出〆切」の期日がそれぞれ早まることが報告されるとともに、3月の理事会の日程を通常よりも早めに開催できないかということが提案された。

あわせて、課題研究Ⅰ～Ⅳの担当は、「課題研究Ⅰ：研究委員会担当」「課題研究Ⅱ：国際交流委員会担当」「課題研究Ⅲ：研究委員会担当」「課題研究Ⅳ：広報・若手育成委員会担当」というかたちで進めることが確認された。

さらに、大会の一次案内を早めに会員に周知する必要があることをふまえて、課題研究Ⅰ～Ⅳの仮題目を年内に決定することとなった。仮題目は各委員会から事務局に連絡し、それを集約して事務局から大会校に連絡することとなった。

（※第30回京都大学大会に関するご案内につきましては、後述の「第30回京都大学大会のお知らせ（一次案内）」もご覧ください）

IV 「自主企画セッション」(仮称)の提案

松下代表理事より、資料に基づき提案があった。

まず、同セッションの名称については、「自主企画セッション」とすることが決定された。

また、審議の結果、第30回大会の記念事業の一環という位置づけで「自主企画セッション」を開催することが承認された。第31回大会以降にも継続して開催するかどうかについては、第30回大会での様子をふまえて改めて検討することとなった。

開催時間については、「第2日の課題研究Ⅲ・Ⅳ」の後に行うことを第一案、「自由研究発表Ⅰ」「同Ⅱ」と並行して行うことを第二案、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」および「課題研究Ⅲ・Ⅳ」と並行して行うことを第三案とし、大会校の方で予算等も再検討したうえで決定し、メールで理事会に報告することとなった。

加えて、第2日の開始時刻を従来の10時から9時30分に修正することが提案され、審議の結果、承認された。

V 柴田元代表理事の追悼記事について

松下代表理事より、柴田元代表理事ご逝去の経緯と、ご遺族から弔問や弔電等については辞退したいとのご希望があることが報告された。その後、理事会出席者全員で黙とうを行った。

本件については Newsletter において会員に周知するとともに学会誌において1ページ程度の追悼記事を掲載することが提案され、承認された。追悼記事については、柴田元代表理事と特に懇意にしておられた安彦元代表理事に依頼することと、松下代表理事から安彦元代表理事に依頼を行うことが確認された。

VI 30周年記念事業について

長尾理事より、口頭で、進捗状況についての報告があった。

タイトルについては『現代カリキュラム研究の動向と展望』で決定したこと、2019年1月にすべての原稿および参考文献一覧や索引等が脱稿となる予定であること、次回の大会には必ず出版が間に合うように進められていることなどが報告された。

VII その他

松下代表理事より、WERAの発表申込みが2019年1月末であることが確認された。

また、以下の日程にて次の理事行うことが確認された。

*次回理事会

日時：2019年3月3日(日) 10:00~13:00

※同日の午後に「研究集会」を開催する(後述の「研究集会のお知らせ」をご覧ください)。

会場：お茶の水女子大学

■報告事項

VIII 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、「会員現況報告」「寄贈図書等一覧」「会計途中報告」について、資料に基づき報告があった。

IX その他

特になし。

研究集会のお知らせ

テーマ：

指導要録の課題を検討する

趣旨：

2018年12月、児童生徒の学習評価に関するワーキンググループの議論の整理（「児童生徒の学習評価の在り方について」）が出され、指導要録改訂をはじめ、新学習指導要領に対応する評価のあり方が示された。高校における観点別評価の本格的導入、資質・能力の三つの柱に対応した観点の再構成、特に「主体的に学習に取り組む態度」をメタ認知（自己調整）を軸に捉えるといった点がポイントとなるが、審議過程においては、評定欄の廃止の可能性が探られるなど、これまでの評価システムを根本的に再考する議論もなされた。本研究集会では、今回の指導要録改訂のポイントを確認しながら、その可能性と課題について議論したい。

日時： 2019年3月3日（日）14時~17時（受付 13時30分~）

場所： お茶の水女子大学 共通講義棟1号館203室

コーディネーター： 石井英真（京都大学）、子安潤（中部大学）

登壇者：

石井英真氏（京都大学）

上村慎吾氏（新潟大学教育学部附属新潟中学校）

菅間正道氏（自由の森学園）

第 30 回京都大学大会のお知らせ（一次案内）

※ 本項目の内容につきましては変更される可能性がございますので、後日配送予定の大会案内・プログラムや学会ウェブサイト (<http://jscs.b.la9.jp/>) 等もご確認ください。

日本カリキュラム学会 第 30 回（京都大学）大会の開催について

このたび、日本カリキュラム学会の第 30 回大会を京都大学でお引き受けしました。現在、大会の開催に向けて、準備を進めております。2017・2018 年の学習指導要領改訂を受けて各地で様々な教育改革が進められておりますときに、本学で記念すべき第 30 回大会を引き受けさせて頂けますことを光栄に思います。第 30 回大会を記念して、今回は、オーストラリアより評価研究の第一人者ロイス・サドラー氏をお招きして、基調講演と公開シンポジウムも企画しております。

詳細については、確定次第、ご案内して参りたいと考えておりますが、取り急ぎ、下記の点にご留意いただきたく、ご連絡いたします。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。何卒よろしく願いいたします。

日本カリキュラム学会 第 30 回大会実行委員会
委員長 西岡加名恵

記

- 1) 日程については、2019 年 6 月 22 日（土）・23 日（日）を予定しています。
※現時点（2019 年 1 月 21 日）で予定されている日程の詳細については、次ページをご覧ください。
- 2) 会場は、京都大学吉田キャンパス吉田南構内（京都市左京区吉田本町）です。
※アクセスについては、下記のサイトをご参照ください。
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_ys.html
- 3) 恐縮ですが、宿泊の斡旋はいたしません。ご自身で手配願います。近年、京都市内の宿泊予約がとくに難しくなっています。早めのご予約をお勧めいたします。
- 4) 例年よりも早い日程を予定しているため、各種締切も早くなります。主なスケジュールは下記を予定しております。
 - ・「自由研究発表申込票」の提出締切：4 月 18 日（木）
 - ・『発表要旨集録』の原稿提出締切：5 月 9 日（木）
 - ・大会プログラムの送付：5 月下旬ごろ

詳細については、後日、ご案内いたしますが、早めのご準備をお願いいたします。

- 5) 2 日目の午後には、会員による「自主企画セッション」も設定することを計画しております。詳細については、「自主企画セッション」募集のご案内（11 ページ）をご覧ください。
- 以上

日本カリキュラム学会 第30回（京都大学）大会日程（予定）

※現在のところ、下記の日程を予定しています。ただし、詳細については、変更する場合があります。確定版については、後日お送りする大会案内・プログラムでご確認ください。

◆ 前 日 2019年6月21日（金） 16:00～18:00 理事会
（京都大学吉田キャンパス）

◆ 第1日 2019年6月22日（土）

受 付 9:30～ 京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館北棟1階 共北12講義室

10:00	課題研究Ⅰ 「実践をつくるカリキュラム・ マネジメント」	課題研究Ⅱ 「考えることを考えるー哲学教育に ついて」
12:00	昼食	
13:00	自由研究発表Ⅰ	
15:00	移動	
15:20	基調講演「Assessment tasks as curriculum statements（仮）」 （国際高等教育院棟・講義室31）	
16:10	休憩	
16:20	公開シンポジウム「評価とカリキュラムの改善（仮）」 （国際高等教育院棟・講義室31）	
18:20	移動	
18:40	研究交流会（カンフォーラ）	
20:30		

◆ 第2日 2019年6月23日（日）

受 付 9:00～ 京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館北棟1階 共北12講義室

9:30	自由研究発表Ⅱ	
11:45	移動	
11:50	総会・昼食	
12:50	移動	
13:00	課題研究Ⅲ 「教科横断型学習の具体像と可能性 を検討する」	課題研究Ⅳ 「ようこそ先輩！カリキュラムの 『不易と流行』を語る」
15:00	休憩	
15:15	自主企画セッション	
16:45		

日本カリキュラム学会 第30回（京都大学）大会 「自主企画セッション」募集のご案内

本学会の大会は、「自由研究発表」「課題研究」「公開シンポジウム」で構成されています。「課題研究」は理事会、「公開シンポジウム」は大会校の企画で、個人会員が自主的に企画できる場はこれまで「自由研究発表」しかありませんでした。

一方、他学会を見ると、「ラウンドテーブル」「自主企画シンポジウム」「コロキウム」などさまざまな名称・形式で、会員が自主的にテーマを設定して議論・交流できるセッションが設定されています。

そこで、本学会でも、第30回大会において、「自主企画セッション」を設定することになりました。第31回大会以降も継続するかどうかは、第30回大会の状況により決定します。ぜひ奮って企画・参加なさってください。

■形式・内容

- ・ 「自主企画セッション」の形式・内容は自由です。ラウンドテーブル、パネルディスカッション、ミニシンポ、ワークショップ、チュートリアルセミナー、読書会、若手の集い、〇〇先生を囲む会など、何でもかまいません。
- ・ 第2日の「課題研究」の終了後、15:15～16:45に設定します。
- ・ 企画者は会員のみ、登壇者は非会員も可とします。ただし、非会員から登壇者を招聘する場合でも、旅費・謝金は支給しません。また登壇する非会員も、大会参加費を支払うものとします。

■申込み方法

- ・ 「自主企画セッション」フォーマットに則ってプログラム用原稿（趣旨文等・次ページ参照）を作成し、2019年3月18日（月）から2019年4月18日（木）までの受付期間中に大会事務局（jscs30kyoto.u@gmail.com）までメールにより申し込んでください（プログラム用原稿の提出をもって、「自主企画セッション」申込みとします）。お送りいただいた原稿をプログラムに掲載します。
- ・ 発表要旨の提出は不要です。
- ・ 基本的に選考は行いませんが、使用できる教室数の関係上、申込み多数の場合は制限する場合があります。「自主企画セッション」設定の可否については、4月30日（火）までにご連絡いたします。
- ・ 当日の配付資料等は、コーディネーターまたは発表者でご準備ください。大会校では、教室のみを手配いたします。

「自主企画セッション」プログラム用原稿フォーマットです。このファイルについては、後日、学会ウェブページに掲載しますので、ファイルをダウンロードの上、上書きする形で作成ください。赤字部分は説明ですので、削除してください。

自主企画セッション（例：ラウンドテーブル）

- * *ラウンドテーブル、パネルディスカッション、ミニシンポ、ワークショップ、チュートリアルセミナー、読書会、若手の集い、〇〇先生を囲む会など、セッションの形式を上記（ ）内に明記してください

タイトル、テーマなど

- * 趣旨文をここから記載してください。（400～600 字程度）

- * 以下、企画者、発表者等の氏名・所属を下記の要領で記載してください。
セッションの形式にあわせて適宜修正してください。
非会員の場合は、（〇〇大学、非会員）のように書いてください。

- 企画者：

- ・氏名（所属）
- ・氏名（所属）

- 発表者：

- ・タイトル

氏名（所属）

- ・タイトル

氏名（所属）

- ・タイトル

氏名（所属）

- 司会：

- ・氏名（所属）
- ・氏名（所属）

- * 1企画につき1頁以内に収めてください。
- * 2019年3月18日（月）から2019年4月18日（木）までの受付期間中に大会事務局（jscs30kyoto.u@gmail.com）までメールにより申し込んでください。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2018年10月31日時点時点)

■会員総数 718名 (一般会員 634名、学生会員 76名、団体会員 8件)

※連絡先不明者 8名、会員一時資格停止者 27名を含む。

【内訳】

- ・新規入会者：10名
- ・退会者：2名
- ・一時停止資格者：27名
- ・連絡先不明者：8名

■会費納入率 (2018年10月31日時点時点)

2018年度：完納 525名 未納 166名 計 691名 75.9%

2017年度：完納 624名 未納 36名 計 660名 94.5%

※連絡先不明者 8名含む、会員一時資格停止者 27名除く。

2018年度からの新入会者：31名 (一般：20名、学生：11名)

2018年4月1日からの新入会者：31名 (一般：20名、学生：11名)

※1名、2017年度中に2018年度会員として入会

■新規入会者 (2018年6月22日～10月31日) 10名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2018/7/6	若松 大輔	所属非公開希望	学生会員	西岡加名恵
2	2018/7/20	森本 和寿	所属非公開希望	学生会員	西岡加名恵
3	2018/7/30	松本 圭祐	所属非公開希望	一般会員	事務局
4	2018/8/6	星 瑞希	東京大学大学院教育学研究科	学生会員	渡部竜也
5	2018/8/21	呂 光暁	所属非公開希望	一般会員	事務局
6	2018/8/22	杉本 真紀子	所属非公開希望	一般会員	事務局
7	2018/8/24	有間 梨絵	所属非公開希望	学生会員	事務局
8	2018/8/31	坂本 篤史	福島大学	一般会員	事務局
9	2018/10/1	酒井 喜八郎	所属非公開希望	一般会員	水野正朗
10	2018/10/15	中村 昭彦	所属非公開希望	一般会員	事務局

■退会者（2018年6月22日～10月31日）2名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2018/7/12	檜尾 一	名古屋栄養専門学校	一般会員
2	2018/8/2	佐藤 史人	和歌山大学 教育学部	一般会員

2. 寄贈図書一覧（2018年6月23日～2018年11月12日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
豊田ひさき(著)	東井義雄 子どものつまずきは教師のつまずき — 主体的・対話的で深い学びの授業づくり	風媒社	2018/7/19	2018/7/23
八尾坂修(編著)	新時代の教職概論 — 学校の役割を知る 教師の仕事を知る	ジダイ社	2018/9/6	2018/9/14
ガート・ビースタ(著)、上野正道(監訳)	教えることの再発見	東京大学出版会	2018/8/28	2018/9/20
西岡加名恵・石井英真(編著)	Q & A でよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価	明治図書	2018/10	2018/10/3
小寺隆幸(編著)	主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 — コンテンツとコンピテンシーを見すえて	ミネルヴァ書房	2018/10/10	2018/10/23
石井英真(編著)	授業改善8つのアクション	東洋館出版	2018/7/31	2018/10/23
ハロルド・O・ラッグ(著)、渡部竜也・堀田諭・斉藤仁一朗・桑原敏典(訳)	アメリカ人の生活と学校カリキュラム — 生活に根差した学校に向けての次のステップ	春風社	2018/9/30	2018/10/30

3. 会計途中報告（2018年4月1日～2018年9月30日）

収入の部

(単位:円)

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	4,141,000
入会金	80,000	60,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	39,017
第29回大会収入(除く補助費)	1,100,000	0
寄付	0	0
前年度繰越金	7,428,075	7,428,075
合計	13,658,075	11,668,092

支出の部

(単位：円)

項目	予算額(円)	実績(円)
第 29 回大会補助費	650,000	650,000
第 29 回大会支出(除く補助費)	1,100,000	0
第 28 号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	57,797
学会研究奨励賞費	0	0
会合費(交通費)	1,200,000	1,890
事務局経費	150,000	51,178
事務局外部委託費	1,600,000	1,231,196
ホームページ委託運用費	250,000	64,800
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	0
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	0
広報・若手育成委員会	300,000	369,235
(小計)	900,000	369,235
30 周年記念事業準備費	3,000,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	3,848,075	9,181,996
合計	13,658,075	11,668,092

4. 平成 30 年度 (2018 年度) 分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2018 年 10 月 31 日時点での 2018 年度会費の納入率は 75.9%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく (株) 国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>